

理想像(ゴール)

永田外
(利用調整)

永田内
(内部の体制)

エコツアー条例が大部分を解決？
現在、進行中。
永田だけで進められるものでない。

近年が大きな転換期か。

現状

まずは内部の体制を整えることが重要

現在の課題概要

永田内

専門家・後継者不足による、
保護活動継続の危機

【NPO法人屋久島うみがめ館】

- ・資金問題
- ・労働力不足
- ・後継者不足

(解散)

【永田ウミガメ連絡協議会】

- ・専門家不足 ←
- ・レクチャーの質の向上
- ・安定した運営
- ・区への還元

【その他の永田区民】

- ・ウミガメ保全活動への理解・協力

永田外

利用増大による、
産卵環境への負担増加

【島民(永田区以外)】

- ・ウミガメ保全活動への理解・協力

【観光客】

- ・ルールの遵守
- ・ウミガメ保全活動への理解・協力

永田浜・ウミガメ

- ・ウミガメ産卵環境の負荷増加
- ・産卵率・ふ化率の低下
- ・ウミガメ生息数の減少

永田浜に関わる内部の体制について

【永田浜ウミガメ保全協議会】

行政による事業実施・保護柵の設置や撤去・保全協議会の開催・観察ルールの検討・地域ルール理解のための情報発信

【永田連絡協議会】

ウミガメ繁殖期における観察会の実施・行政による事業実施・保護柵の設置や撤去・保全協議会の開催・観察ルールの検討

【うみがめ館】

調査研究・環境教育対応・遮光林管理・ウミガメの救出・流出卵の移植・砂中及び海中温度モニタリング・浜の利用者モニタリング・資料館の運営・行政による事業実施・保護柵の設置や撤去など

今年度報道された「うみがめ館解散」が起こった場合、この部分はなくなると考えられた。

第2回保全協議会 議事2) ④で決定したいこと

- 永田浜ウミガメ保全協議会の現状認識の統一
- 関係機関が意識を刷新し、ウミガメ・永田浜の保全活動への関わりを強化することの確認



次回以降の動き（予想）

- 保全事業についてリストアップ
- 各事業について検討し、今後展開していく必要のある事業の選定
- 喫緊の課題について優先事項の検討、解決方法の検討
- 現在実施している事業内容の見直し
- 主にどの機関が何の事業を負担するのか割り振り
- (最終的な保全活動の目標の策定)

今後の作業について（あくまで参考案）

区分	事業(抜粋)	備考	重要度
保護活動	遮光林の植樹・管理	植樹するマツの用意・肥料等に費用がかかる。土地の借用なども問題。	
	調査・研究 環境教育	知識や経験を要する。過酷な調査を継続できるか。近年は島内児童や企業から講演依頼が年に1～6回。	
	親ガメ・子ガメの救出	カメを扱う技術を持った人間が両協議会にほぼいない。	
	資料館の維持管理	維持管理費300万円/年(人件費除く)。 所有者といかに連携をとるか。	
	卵の移植		
観察会 ・ 放流会	レクチャー	知識や経験が必要不可欠。 保全協議会としては、レクチャー内容の指導等で貢献できるか。	
	子ガメの用意 (放流会)	子ガメの用意はうみがめ館に頼りきり。	